7.　光能動部品に関する標準化

7.1　まえがき

7.2　調査範囲と計画

7.3　審議経過と内容

7.4　既制定JIS見直しに向けた検討

7.5　海外における標準化動向

7.5.1　IEC/SC86Cの活動

7.5.2　IEC/SC47Eの活動

7.5.3　IEC TR 62572-4:2013の改訂に関連する支援

昨年度に，IEC TR 62572-4の改訂原稿の基になるOITDA-TP 12/ADの改版を行い，2019年3月7日に公表した。

一方，IEC TR 62572-4, Ed.2に向けた活動では，2018年10月の釜山会合で具体的な改訂点を説明した後，各National Committee（NC）に対し改訂点を問い合わせるQ文書を回覧し，その結果を，2019年3月のSan Diego会合で審議した。会合の場で，米国委員から，Multi-single ferrule typeを盛り込むよう提案があり，タイプを，Multifiber ferrule type / Multi-single ferrule type / No ferrule typeの3つとすること，Multi-single ferrule typeに関して米国委員からの具体的な原稿案を待つことが合意された。また，不活性溶剤を用いた清掃装置及びエアーダスタに対し、"Consult transceiver manufacturer for recommended use."と記載することが合意された。さらに，反対投票したロシアNCに対し，追加問い合わせは行わないことが確認された。

会合の後，米国委員とe-mailによる審議を行った。その中で，米国委員から，プラガブル光トランシーバのタイプの分類法に関する情報を記載したいとの提案があった。SC86C/WG4でインタフェースを規定する親規格であるIEC 62148-1（Fibre optic active components and devices - Package and interface standards - Part 1: General and guidance）に情報を追加したいとの要望が寄せられた。部会で審議した結果，IEC 62148-1は，ピッグテール形，レセプタクル形及びビーム出射など，光トランシーバ及びプラガブル光トランシーバよりも上位の階層の分類を規定しており，プラガブル光トランシーバの分類法を規定するには違和感があるため，例えばTRなどの別文書を作成するのがよく，米国委員担当で，新規に作成することを推奨することが合意された。

また，部会での審議で，米国委員から提案された光コネクタインタフェースは，光コネクタの標準化を担当するSC86B（光ファイバ接続部品及び光受動部品）で標準化されていないかん合標準であるため，その詳細情報をSC86Cの文書に規定することはできないとの合意が得られた。

分類法及び新しい光コネクタインタフェースの規定に関する合意事項を，SC86C/WG4国内委員会へ伝えると共に，2019年10月の上海会合に向けた方針を審議してもらうよう依頼した。

SC86C/WG4国内委員会で審議した結果，部会の意見が合意され，それに基づき上海会合に臨むこととなった。

SC86C/WG4上海会合では，米国委員は欠席した。また，SC86C/WG4の前日に開催されたSC86B/WG6（光ファイバ接続部品）で，その米国委員から当該の光コネクタのかん合標準が新規に提案されたことが報告された。上海会合前に，日本意見を伝えていたため，その意図を汲んで対応したものと想像される。SC86C/WG4上海会合の結果，米国委員が提案した“multi-single ferrule type”を盛り込まず，日本提案の原稿を，CD回覧することが合意された。

CDが，11月1日に回覧された。1月24日のコメント締切に対し，4件の一般コメント及び2件のエディトリアルコメントが集まった。今年度第6回の部会で、コメントに対するPL対応案が審議され、合意された。2020年3月のSan Diego会合でコメント審議が行われ，DTR回覧が合意された。

7.6　今後の課題と活動計画

7.7　まとめ